町長ひとりごと ㊽

斉藤 譲

世の大人や親達は、よく「今時の若者は…、子供は…」と嘆く。斯くいう私も、ついこの言葉を口にすることがある。物の本によれば、古代の文書の中にも、当時の若者の頼りなさを嘆く文字が残されているという。そうしてみるとこれは古今東西を問わず常に繰りかえされてきたことであり、今の大人や親達も曾ってその先輩やその親達に、同じような言葉を浴せられてきたに相違ない。事実、私もそうである。複雑で厳しい実社会をくぐり抜けてきた者には、その経験の乏しい若者の言動は、あまりにも危うく頼りないものに思えるのである。たしかにその一面はあるが、しかし反面で彼等には大人や親にはない実社会の枠だけにとらわれない、新らしい社会への対応力が内包されていることも忘れてはならない。それは社会を革新する力といってもよい。

七年ほど前の成人式の折に、成人代表者は挨拶の中でこう言った。

先輩からみれば、僕達はいつまで経っても子供です。僕達は新人類と呼ばれていますが、新人類は新人類なりに明日をめざして頑張ります。

▼先月の二十日、議場で町の子供議会が開かれた。夏休みの一日を利用して、子供達に地方自治や議会制度を学び体験してもらおうと議員の皆さんの肝煎りで始められ、今年でちょうど十回目となった。各小学校の六年生が十四名、中学生が六名の計二十名の子供議員が議席につき、傍聴席には引率の先生や児童、それに議会議員が並んだ。次々と質問台に立つ子供議員の態度はなかなか立派で、その質問の内容も自らの目を通して実感したことを卒直に語り、とても好感がもてたし、頼もしくも思った。ふだん観念論やはったりばかりの、空理空論が飛び交う国会などの無様な姿に辟易していた私の目には、それが一段と新鮮で爽やかなものに映った。何是に大人になるとこの謙虚さが失なわれてしまうのか不思議だ。

子供の目

「今時の大人は…」との思いが頭を過り、思わず苦笑してしまった。

質問の内容は多岐にわたった。ゴミ処理や空缶などのリサイクル問題、通学道路の安全対策、老人問題等々どれをとっても、いま町政の中での重要課題である。中には痛いところを突かれて、思わず「ウーム」と唸りたくなるような鋭い質問もあった。

▼ふだん棘のある質問には慣れている各課長も、この日ばかりは相手が純真な子供のことであるから多少勝手が違うのか、難かしい議会用語を避け、言葉を選びながらの答弁でどことなくぎこちなく側で聞いていていま一迫力に欠けているようで可笑しかった。

それではここで、幾つかの質問の要旨を紹介したい。

○濁川光宏君（南条小）

ぼくはいつも思う。日吉にはスポーツ公園、東陽には図書館、白浜には温水プールを造っている。南条地区にはゴルフ場を造る予定です。ゴルフ場ができてもぼく達子供には利用できません。何か子供が遊べる施設を南条地区に造ってください。

○大木一訓君（南条小）

私達の光町に温水プールができるときいて、とてもうれしく思いました。温水プールは白浜地区にできるので南条や日吉からは、かなり遠くなります。下級生は自転車で行くことはできませんし、私達でも長い距離を自転車で走ることは危険です。そこで、交通手段を町の方で考えてください。

○加瀬順子さん（白浜小）

社会では農村のかそ化が問題になっています。この光町では、おじいさんおばあさんと暮らしている家庭が多いが、私達が老人になる頃にはどうでしょうか。さみしく一人暮らしをする人が多くなっているのではないでしょうか。そこで、老人が集まって楽しく過ごせる「いこいの場」を作ったらよいと思います。

○市田智美さん（光中）

私の住んでる白浜地区は、最近なんだか汚いように見えます。これは白浜地区に限らず光町全体にも言えるのではないでしょうか。そのため私の地区では、休日に子供会で空缶ひろいやゴミひろいをしています。なのに一、二日するとまた元のように汚れてしまうのです。町も環境係を作ったということですから町の人々がこの問題にもっと真険に考えるよう、その取組みについてPRに力を入れてはどうでしょうか。「クリーンタウン光町」とか「ゴミゼロ光町」とかの大きなスローガンを掲げては。

▼世の大人や親御の皆さん「今時の子供は…」などと嘆く勿れ。こんなにも子供達の目は濁りなく清い。彼らはこの目で社会や大人、親達の姿を見つめているのだ。

またしても背中が気に懸る昨今である。